

## 第2章 沖縄愛楽園を取り巻く動向

### 1 沖縄愛楽園を取り巻く動向

#### (1) 医療・介護サービス

##### ① 入所者への医療・介護サービス

###### ア 沖縄愛楽園の理念

沖縄愛楽園では、下記の「理念」、「基本方針」及び「患者様の権利」を示している。

###### ■沖縄愛楽園の理念

「入所者・高齢者が安心して生活できる場の提供」

###### 《基本方針》

1. 入所者の権利及び人権を尊重します。
2. 快適な療養環境を提供します。
3. 信頼される医療・看護・介護を目指します。
4. ハンセン病の更なる啓発活動に努めます。
5. 医療の質の向上のため、職員の教育・研修に努めます。

###### 《患者様の権利》

1. 皆さまは、公正に良質な医療を受けることができます。
2. 皆さまは、検査や治療方針を自らの意志で決定することができます。
3. 皆さまは、今までのご自身の診療情報について、知ることができます。
4. 皆さまの個人情報やプライバシーは守られています。
5. 皆さまは、園内で起こった出来事で苦情を申し立てることができます。

出典：沖縄愛楽園 HP

###### イ 各部署紹介

沖縄愛楽園看護部には6つの部署があり、下記の「理念」及び「基本方針」のもとに、看護・介護を行っている。

###### 【理念】

私たちは、ハンセン病療養所の情報発信に努め入所者の皆様に、納得と満足をしていただける質の高い看護・介護を提供いたします。

###### 【基本方針】

入所者の皆様が生きてきた過去の体験に想いをよせ、ハンセン病の後遺症による不自由な状況や心のいたみ・悲しみに対する労りを基盤に、適切な生活支援と環境の提供に努める。

また、看護の本質を追究し入所者・家族の意思を尊重し、個別性のある看護・介護を提供する。

出典：沖縄愛楽園 HP

		看護・介護の特徴
第一不自由者棟	在籍数：34名 平均年齢：88.8歳	<p>第一不自由者棟は超高齢化に伴い、視力障害・四肢の変形・欠損などによる高度障害や循環器疾患、糖尿病、認知症などにより日常生活の不自由度の進行や医療の必要性が増えています。</p> <p>小集団のユニット（10～11名）による個別ケアを中心とし、健康管理を行いながらライフサポートの一環として、入所者や家族の意向に沿った生きがいづくり、日々の生活の充実を図るため趣味の活動やレクリエーションが活発に行われています。</p> <p>ひとり一人の入所者が人生の最後の時まで、その人らしく過ごせるよう看護と介護が連携し、入所者の療養生活を支えています。</p>
第二不自由者棟	在籍数：41名 平均年齢：87.8歳	<p>第二不自由者棟では、健やかに心豊かに過ごして頂けるよう健康管理や日常生活援助を行っています。</p> <p>その人の生活に寄り添いながら看護・介護が連携を取りいろんな事に挑戦しています。</p> <p>入所者が望めば、棟内での看取り、寮友、職員とのお別れ会を行っています。</p>
第六不自由者棟	在籍数：48名 平均年齢：82.8歳	<p>第六不自由者棟は50歳代～90歳代の方が入所し、単身者と夫婦者と混在し生活環境も様々です。自立度が高い入所者が多く、家庭菜園やテーブルゲーム・ソフトバレーを楽しんでいます。</p> <p>入所者の「思い」を大切にレクリエーションを計画し、その人らしく生活出来るよう援助しています。</p> <p>入所者を尊重し「その人らしさを大切に」した看護・介護の提供が行えるようプライマリーナーシングの充実を図っています。</p>
治療棟	<p>■診療科</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 一般内科</li> <li>・ 外科</li> <li>・ 皮膚科</li> <li>・ 心療内科</li> <li>・ 眼科</li> <li>・ 歯科</li> <li>・ 整形外科（隔週）</li> <li>・ 泌尿器（隔週）</li> <li>・ 耳鼻科（隔週）</li> </ul>	<p>外来看護師は、各診療科の特殊性に応じた外来診療の補助のほか、内視鏡検査、超音波検査の介助、中央材料室業務、多岐にわたる業務に従事し、診察、治療に臨む患者様一人一人の思いを受け止め、不安なく診察、治療を受けることが出来るよう努めています。</p> <p>又、ハンセン病後遺症の看護として、足底潰瘍に対するフットケアの充実、角膜保護の為の睫毛抜去など看護技術向上に向けて取り組んでいます。</p>
治療センター		<p>急性期及び治療を必要とする入所者（脳梗塞、肺炎、人工呼吸器装着など）の方々から、基本的生活の援助やリハビリテーションが必要な慢性期の方まで幅広く受け入れ、安心と安全な医療・看護・介護の提供に努めています。</p> <p>慢性期の方に対してもライフスタイルに合わせた生活指導の充実を努め、退室に向けての援助を行います。また、終末期（看取り）の入室希望者も受け入れ、緩和ケアの役割も担っています。</p> <p>入室者の訴えに耳を傾け、常に入所者の立場に立ち看護を考え、質の高い看護実践を目指しスタッフ一丸となり頑張っています。</p>

※第三不自由者棟は休棟中

出典：沖縄愛楽園HP

## ウ ライフサポートシンポジウム

沖縄愛楽園では平成 20 (2008) 年 4 月より看取りチームが発足し、翌年より「看取り看護について考える」として看取り看護の在り方を検討し、活動を続けました。平成 24 (2012) 年にはライフサポートチーム (LST) 会議が発足し、「入所者 1 人 1 人の尊厳を守り、その人らしい人生が全うできるように支援する」として、全職種、全職員が自分の実践できるライフサポートについて、「人生を応援し隊」の隊員として活動してきた。その集大成として、平成 28 (2016) 年 2 月 23 日に第 1 回ライフサポートシンポジウム (ライフサポートの質の向上に向けて～愛楽園のめざす道～) が開催された。シンポジウムでは、医療部門より 6 題、事務部門より 3 題、計 9 題の活動報告が行われた。今後も入所者が「こころ豊かに生きる」ために多職種協同でライフサポート体制の充実、普及に取り組みを続けていく。

平成 31 年 1 月 19 日には、第 4 回ライフサポートシンポジウムが行われ、園内各部署の最新の取り組みが報告された。

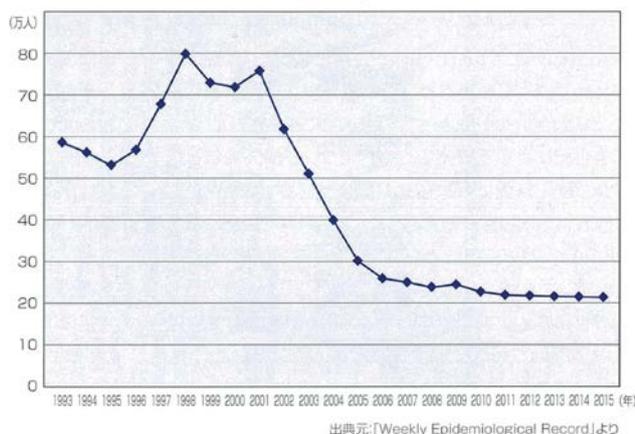
## (2) ハンセン病の理解向上について

### ① ハンセン病に関する正しい知識の普及・啓発活動

#### ア ハンセン病患者数の推移 (WHO)

ハンセン病は、公衆衛生や栄養状態、経済状態の悪い国々で見られる。これらの国では子どもでも発症することがあるため、早期発見と治療、予防が課題となっている。

しかし、医師の絶対的不足や貧困、ハンセン病に関する偏見や差別など大きな困難がある。WHO が掲げた目標値を達成し患者は激減しているが、国あるいは WHO のテコ入れが低下することが懸念されており、NGO 等の地道な活動の努力が求められている。



出典：ハンセン病問題を正しく伝えるために (平成 29 年 1 月、厚生労働省)

#### イ ハンセン病に関する国民の意識

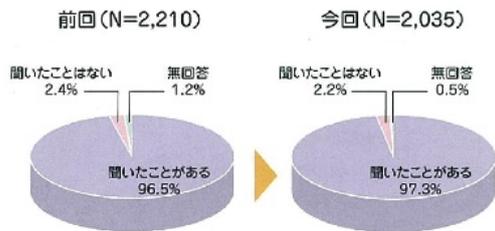
平成 20 年 3 月に岡山県で行われた「ハンセン病に関する県民意識調査 (一部抜粋)」によると、「15 歳以上の岡山県民のほとんどがハンセン病を知っている」こと、「若い人ほどハンセン病に関してよく知りたいと思っている人が多い」こと、「偏見や差別解消には学校で正しい知識を教える、行政が啓発活動を行うのがよいと思っている人が多い」こと、「入所者が社会復帰をするためには、偏見・差別を取り除く、行政が手厚い支援を行うのがよいと思っている人が多い」という結果が出ている。

また、平成 28 (2016) 年の毎日新聞によるアンケート調査によると、当時入所者 100 人以上の療養所に入所している入所者の 75%、退所者の 89%が「今も差別や偏見がある」という回答を得ている。さらに、「らい予防法」廃止後も周囲の変化が「ない」と回答したのは、入

所者 52%、退所者 57%で、入所者の 17%、退所者の 21%は法廃止後も「自身や家族・親族が地域で不快な思いをしたり、結婚に反対されたりするなどの差別を受けた」としている。

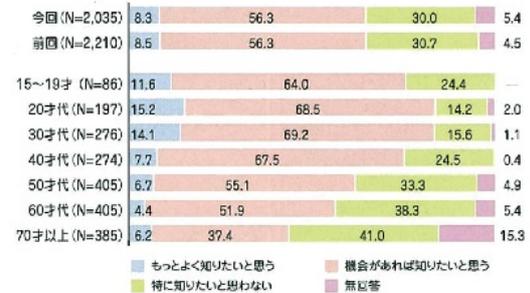
ハンセン病は、今も根強く偏見や差別が残っており、今後もハンセン病に関する歴史や正しい知識の普及・啓発活動が必要である。

**問 1** あなたは、「ハンセン病(らい)」という病気の名前を聞いたことがありますか？



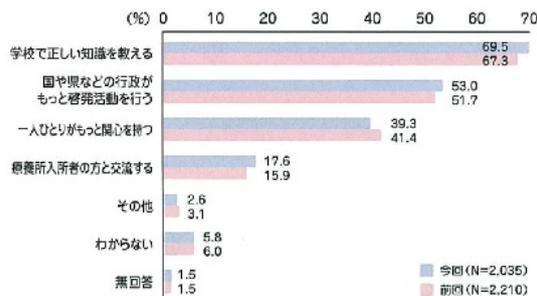
15歳以上の県民のほとんどすべてがハンセン病という病名を知っている。

**問 2** あなたは、ハンセン病に関することを知りたいと思いますか？



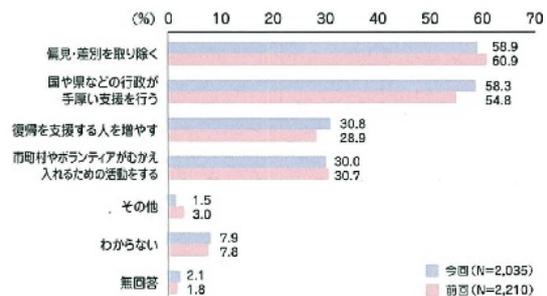
年齢別にみると、若い人ほどハンセン病に関してよく知りたいと思っている人が多い。

**問 3** あなたは、ハンセン病への偏見や差別の解消のために何をしたらよいと思いますか？



5年前に行われた調査結果と比べて、大きな違いはみられない。

**問 4** あなたは、療養所入所者が社会復帰するために、どうしたらよいと思いますか？



前回の調査結果より、「国や県などの行政が手厚い支援を行う」が若干増加している。

出典：ハンセン病問題を正しく伝えるために（平成 29 年 1 月、厚生労働省）

② 人権教育・研修の場としての既存施設・機能の活用

ア 沖縄愛楽園交流館の概要

沖縄愛楽園交流会館は、沖縄愛楽園自治会が中心となりつくりあげてきた資料館で、平成 27 年に開館した。沖縄愛楽園自治会は、長年将来構想の一環として歴史を伝える資料館建設を考えており、「沖縄県ハンセン病証言集」刊行後の平成 21 年に準備委員会を立ち上げ、常設展示にいわゆる展示業者は入らずに、退所者や学識経験者と協働して常設展示をつくってきた。

常設展示には、沖縄の療養所の特徴である沖縄戦や米軍統治下の展示をはじめ、療養所に生きてきた人々の姿や多くの証言が展示されている。

そのほか、不定期に企画展を開催し、付帯イベントも行っている。



表 沖縄愛楽園交流館の概要

開館時間	10：00～17：00（入館は16：30まで）
休館日	月曜日、祝日、年末年始
入館料	無料
事前申込	展示解説や園内案内、回復者による講話を希望される場合は必要
行っている 主な行事	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料収集</li> <li>・資料保管（整理・修復・複製）</li> <li>・調査研究</li> <li>・展示（常設展・企画展）</li> <li>・教育普及（展示解説・園内案内・回復者の講話・ボランティアガイド養成）</li> </ul>

### （3）高齢者・障がい者の動向

#### ① 高齢者・障がい者施設

##### ア 超高齢化社会へ

日本の総人口は、平成29年10月1日現在、1億2,671万人となっている。そのうち、65歳以上人口は3,515万人となり、総人口に占める割合（高齢化率）も27.7%となった。

65歳以上人口を男女別にみると、男性は1,526万人、女性は1,989万人で、性比（女性人口100人に対する男性人口）は76.7であり、男性対女性の比は約3：4となっている。

生産年齢人口（15～64歳）は、平成7（1995）年に8,716万人でピークを迎え、その後減少傾向に転じ、平成25年には7,901万人と昭和56（1981）年以来32年ぶりに8,000万人を下回った。

表 日本の高齢化の現状

		平成29年10月1日		
		総数	男	女
人口 (万人)	総人口	12,671	6,166	6,505
	65歳以上人口	3,515	1,526	1,989
	65～74歳人口	1,767	843	924
	75歳以上人口	1,748	684	1,065
	15～64歳人口	7,596	3,841	3,755
	15歳未満人口	1,559	798	761
構成比	総人口	100.0	100.0	100.0
	65歳以上人口(高齢化率)	27.7	24.8	30.6
	65～74歳人口	13.9	13.7	14.2
	75歳以上人口	13.8	11.1	16.4
	15～64歳人口	60.0	62.3	57.7
	15歳未満人口	12.3	12.9	11.7

資料：総務省「人口推計」平成29年10月1日（確定値）  
 （注）「性比」は、女性人口100人に対する男性人口

出典：「平成30年版高齢社会白書」（平成30年7月、厚生労働省）

沖縄県におけるの高齢者人口は、平成 29 年 3 月現在約 29 万 6 千人で、高齢化率は 20.5% となっており、平成 24 年度と平成 28 年度を比較すると、高齢者人口の伸び率は約 16.9% となっている。

今後も高齢者人口は増加していく一方で、年少人口（0～14 歳）や生産年齢人口は減少していくことが予想されており、2025 年には高齢者人口が 35 万 3 千人、高齢化率 25.0% になると見込まれている。

高齢者人口が増加していることにより、高齢者世帯（世帯主が 65 歳以上）も増加傾向にある。今後は特に、単独世帯及び夫婦のみ世帯が増加していくと見込まれている。

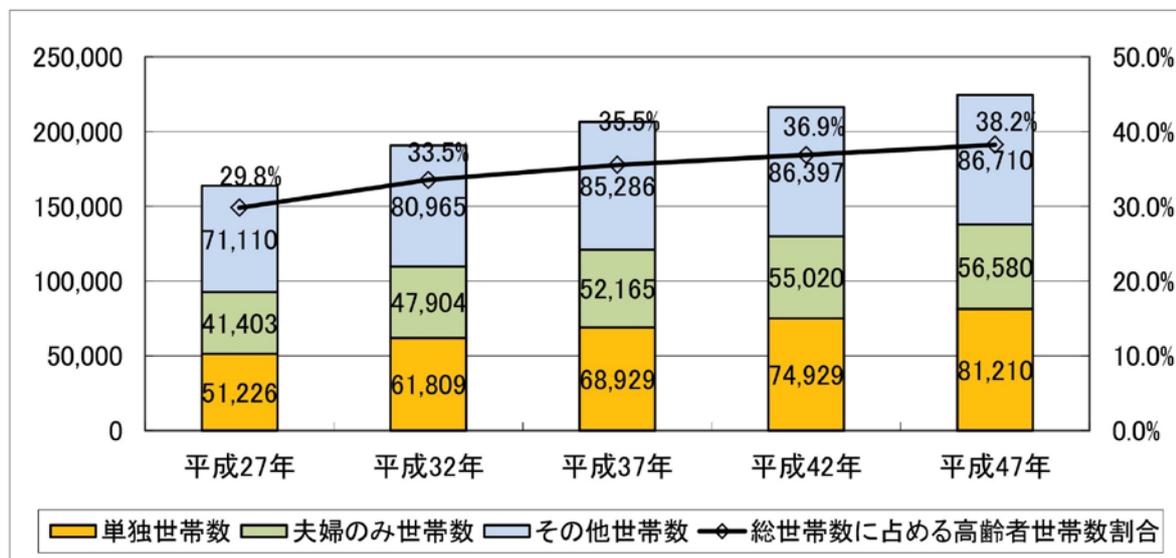
表 沖縄県の高齢者人口と高齢化率の推移

		(単位:人)				
		平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
人口総数		1,413,733	1,420,005	1,426,097	1,433,181	1,443,080
高齢者人口(65歳以上人口)		253,078	262,062	273,068	285,144	295,759
	65歳以上75歳未満	120,546	125,064	132,038	140,096	146,515
	75歳以上	132,532	136,998	141,030	145,048	149,244
高齢化率		17.9%	18.5%	19.1%	19.9%	20.5%

資料：人口総数については、沖縄県企画部統計課「県推計人口」（各年度 3 月値）より作成。高齢者人口については、「介護保険事業状況報告」より作成（平成 24～27 年度は年報確定値、平成 28 年度は速報値）

出典：「沖縄県高齢者保健福祉計画(第 7 期)」(平成 30 年 3 月、沖縄県)

図 沖縄県の高齢者人口と高齢化率の推移



		(単位:世帯数)				
		平成27年	平成32年	平成37年	平成42年	平成47年
総世帯数		549,468	569,151	580,781	586,872	587,318
総世帯数に占める高齢者世帯数割合		29.8%	33.5%	35.5%	36.9%	38.2%
	高齢者世帯数に占める単独世帯数割合	31.3%	32.4%	33.4%	34.6%	36.2%
	高齢者世帯数に占める夫婦のみ世帯数割合	25.3%	25.1%	25.3%	25.4%	25.2%
	高齢者世帯数に占めるその他世帯数割合	43.4%	42.5%	41.3%	39.9%	38.6%

資料：国立社会保障・人口問題研究所「日本の世帯数の将来推計（都道府県別推計）」平成 26 年 4 月推計値より作成

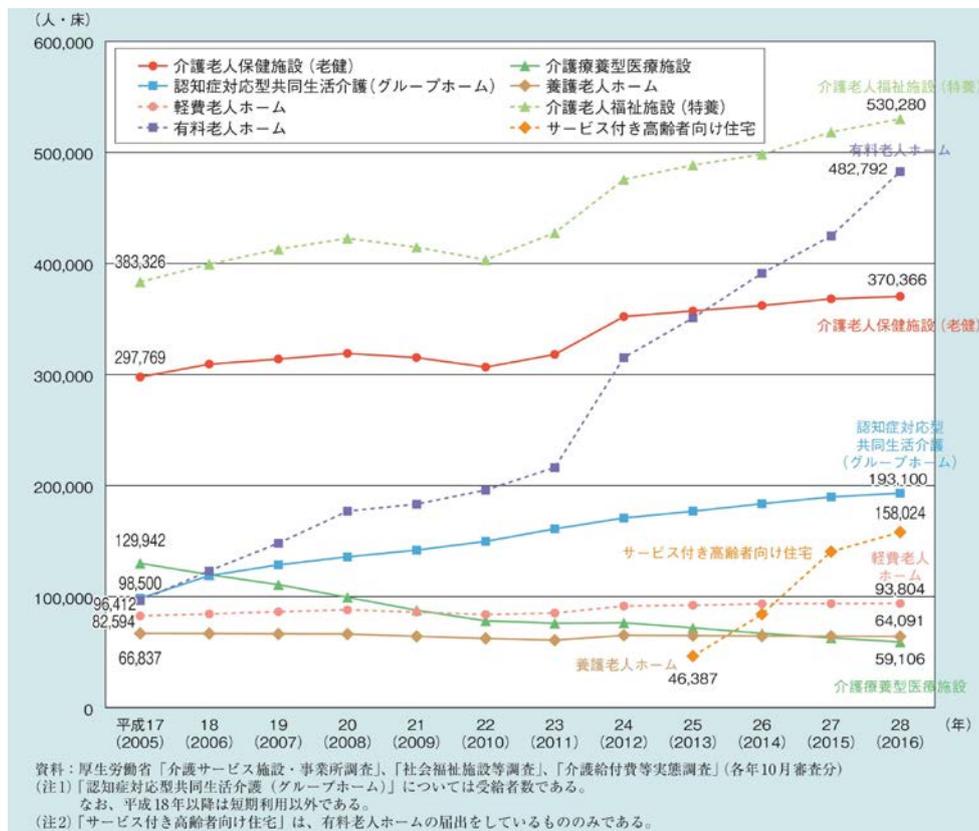
出典：「沖縄県高齢者保健福祉計画(第 7 期)」(平成 30 年 3 月、沖縄県)

## イ 高齢者施設の種類のニーズ

日本における介護施設等の定員数をみると、増加傾向にある。施設別にみると、平成 28 年では介護老人福祉施設（特養）530,280 人、有料老人ホーム 482,792 人、介護老人保健施設（老健）370,366 人等の定員数が多い。また、近年有料老人ホーム、サービス付き高齢者向け住宅の定員数が特に増えている。

また日本では、平成 19 年に「周末期医療の決定プロセスに関するガイドライン」（平成 26 年「人生の最終段階における医療の決定プロセスに関するガイドラインに改称」）を取りまとめており、国として看取り看護が位置づけられている。今後高齢者施設における看取りのニーズは増えていくと考えられる。

図 高齢者向け住まい・施設の定員数



出典：「平成 30 年版高齢社会白書」(平成 30 年 7 月、厚生労働省)

※・介護老人保健施設(老健)：要介護者に対し、施設サービス計画に基づいて、看護、医学的管理の下における介護及び機能訓練その他必要な医療並びに日常生活上の世話を行うことを目的とする施設。

・介護療養型医療施設：療養病床等を有する病院又は診療所であって、当該療養病床等に入院する要介護者に対し、施設サービス計画に基づいて、療養上の管理、看護、医学的管理の下における介護その他の世話及び機能訓練その他必要な医療を行うことを目的とする施設。

・認知症対応型共同生活介護(グループホーム)：認知症(急性を除く)の高齢者に対して、共同生活住居で、家庭的な環境と地域住民との交流の下、入浴・排せつ・食事等の介護などの日常生活上の世話と機能訓練を行い、能力に応じ自立した日常生活を営めるようにする。

・養護老人ホーム：入居者を養護し、その者が自立した生活を営み、社会的活動に参加するために必要な指導及び訓練その他の援助を行うことを目的とする施設。

・軽費老人ホーム：無料又は定額な料金で、食事の提供その他生活上必要な便宜を供与することを目的とする施設

・介護老人福祉施設(特養)：要介護高齢者のための生活施設で、入浴、排泄、食事等の介護、その他日常生活の世話、機能訓練、健康管理及び療養上の世話を行う。定員が 29 名以上のものは、地域密着型介護老人福祉施設(地域密着型特別養護老人ホーム)とよばれる。

・有料老人ホーム：①入浴、排せつ又は食事の介護、②食事の提供、③洗濯、掃除等の家事、④健康管理のいずれかを事業を行う施設。

・サービス付き高齢者向け住宅：状況把握サービス、生活相談サービス等の福祉サービスを提供する住宅。

## ② 看取りについて

### ア 人生の最終段階における医療の決定プロセスに関するガイドライン

平成 18 年 3 月に、富山県射水市民病院における人工呼吸器取り外し事件が報道され、「尊厳死」のルール化の議論が活性化した。そこで平成 19 年、厚生労働省に「周末期医療の決定プロセスのあり方に関する検討会」が設置され、回復の見込みのない末期状態の患者に対する意思確認の方法や医療内容の決定手続きなどについての標準的な考え方を整理することとなり、パブリックコメントや検討会での議論を踏まえ、平成 19 年 5 月に「周末期医療の決定プロセスに関するガイドライン」を取りまとめた。なお、平成 26 年に「人生の最終段階における医療の決定プロセスに関するガイドライン」に名称を変更している。

表 ガイドライン概要

1. 人生の最終段階における医療及びケアの在り方	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 医療従事者から適切な情報の提供と説明がなされた上で、患者が医療従事者と話し合いを行い、患者本人による決定を基本として周末期医療を進めることが重要。</li><li>・ 人生の最終段階における医療の内容は、他専門職種からなる医療・ケアチームにより、医学的妥当性と適性を基に慎重に判断する。</li></ul>
2. 人生の最終段階における医療及びケアの方針の決定手続き	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 患者の意思が確認できる場合には、患者と医療従事者とが十分な話し合いを行い、患者が意思決定を行い、その内容を文書にまとめておく。説明は、時間の経過、病状の変化、医学的評価の変更に応じてその都度行う。</li><li>・ 患者の意思が確認できない場合には、家族が患者の意思を推定できる場合には、その推定意思を尊重し、患者にとっての最善の治療方針をとることを基本とする。</li><li>・ 患者・医療従事者間で妥当で適切な医療内容について合意が得られない場合等には、複数の専門家からなる委員会を設置し、治療方針の検討及び助言を行うことが必要。</li></ul>

### イ 県内のホスピス

緩和ケアの役割は、時期にかかわらず、がんに伴う心と体の痛みを和らげ、患者、家族が「自分らしく」過ごせるように支えることを目指す。

緩和ケアを受けるには、緩和ケア外来と、緩和ケア病棟（ホスピス）への入院という方法があり、緩和ケア病棟（ホスピス）では、トータルペインの視点でケアの提供を行い、患者や家族が過ごしやすい設備を整えている。

沖縄県内で、ホスピスまたは緩和ケアを実施している病院は 11 施設ある。

表 緩和ケア外来・緩和ケア病棟（ホスピス）のある医療機関

	緩和ケア外来	病棟（ホスピス）
琉球大学医学部附属病院	○	—
地方独立行政法人 那覇市立病院	○	—
沖縄県立中部病院	○	—
沖縄県立八重山病院	○	—
特定医療法人葦の会 オリブ山病院	○	○
独立行政法人国立病院機構 沖縄病院	○	○
社会医療法人友愛会 南部病院	○	○
宗教法人セブンスデーアドベンチスト教団アドベンチストメディカルセンター	○	○
浦添総合病院	○	—
医療法人沖縄寿光会 与勝病院	—	○
特定医療法人葦の会 シャロンクリニック	○	—

#### ウ 日本版CCRC構想

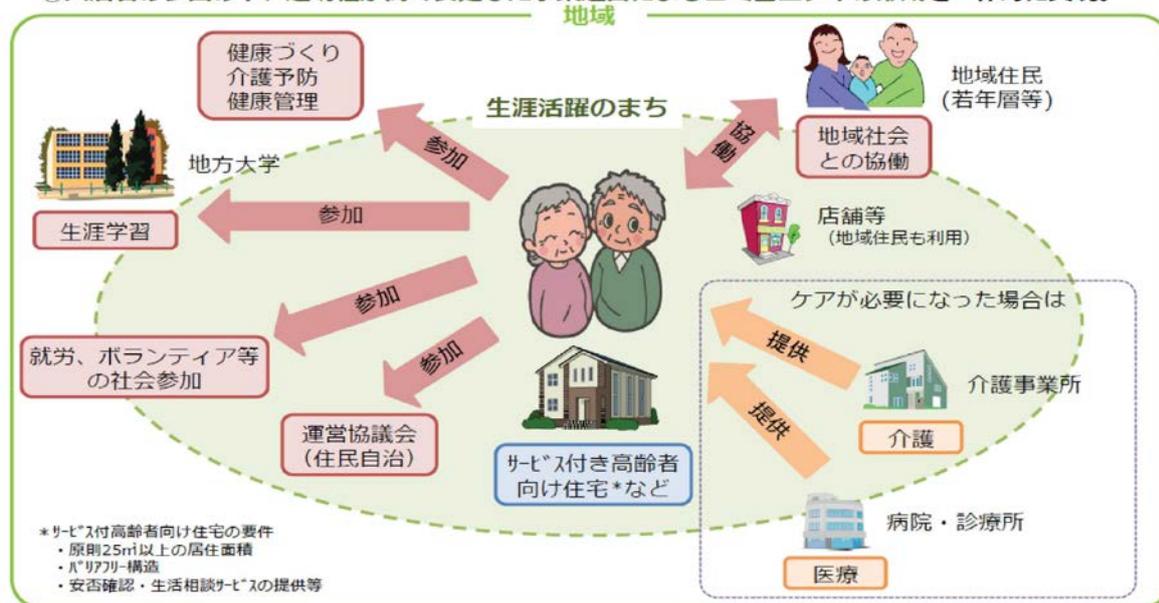
CCRCとは、高齢者が地方に移り住み、健康時から介護・医療が必要となる時期まで継続的なケアや生活支援サービス等を受けながら生涯学習や社会活動等に参加するような協働団体（Continuing Care Retirement Community）のことである。

日本では、地方創生の観点から、中高齢者が希望に応じて地方や「まちなか」に移り住み、地域住民や多世代と交流しながら健康でアクティブな生活を送り、必要に応じて医療・介護を受けることができる「生涯活躍のまち」（日本版CCRC）づくりを推進している。本構想の意義として、以下の3つがあげられている。

- 1 中高年齢者の希望の実現
- 2 地方への人の流れの推進
- 3 東京圏の高齢化問題への対応

図：「生涯活躍のまち」における中高年齢者の生活（イメージ）

- ①健康でアクティブな生活の実現と継続的ケアの提供、②自立した生活ができる居住環境の提供、③入居者の参画の下、透明性が高く安定した事業運営によるコミュニティの形成を一体的に実現。



※事業の透明性・安定性の確保の方策：入居者の参画、情報公開、事業の継続性確保等

出典：「生涯活躍」構想に関する手引き(第3版) (平成 28 年4月、内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局)

図：従来の高齢者施設等との基本的な違い

従来の高齢者施設等		「生涯活躍のまち」構想
主として要介護状態になってから選択	居住の契機	健康時から選択
高齢者はサービスの受け手	高齢者の生活	仕事・社会活動・生涯学習などに積極的に参加 (支え手としての役割)
住宅内で完結し、地域との交流が少ない	地域との関係	地域に溶け込んで、多世代と共働

出典：「生涯活躍」構想に関する手引き(第3版) (平成 28 年4月、内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局)

## (4) 地域の振興に関する動向

### ① 地域振興の現状

#### ア 沖縄県の観光客数

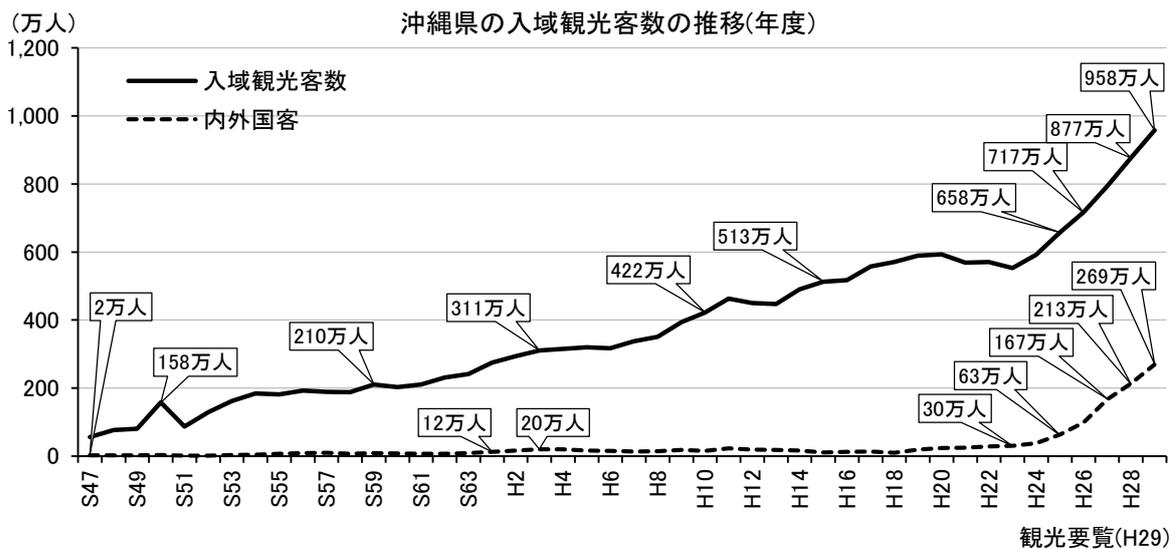
沖縄県の平成 29 年度入域観光客数は、過去最高の 957 万 9,900 人で、前年比で 81 万 700 人、率にして 9.2%の増加となった。前年度と比べて増加した要因は、「行政や民間団体が一体となったプロモーション活動により、沖縄の認知度向上や旅行意欲の喚起を図ったこと」「離島直行便など国内航空路線の拡充による国内客の増加」「東南アジアなどの海外航空路線の拡充・クルーズ船寄港回数の増による観光客の増加」が考えられる。

この結果を受け、沖縄県は 2021 年度までの入域観光客数を 1,000 万人から 1,200 万人に上方修正した。

沖縄県の入域観光客数の推移(年度)

年度	総数	前年比	国内客	前年比	外国客	前年比
S47	558,593	-	536,811	-	21,782	-
中略						
H1	2,747,600	113.9%	2,626,100	112.8%	121,500	143.6%
中略						
H22	5,705,300	100.3%	5,422,500	99.6%	282,800	114.9%
H23	5,528,000	96.9%	5,226,600	96.4%	301,400	106.6%
H24	5,924,700	107.2%	5,542,200	106.0%	382,500	126.9%
H25	6,580,300	111.1%	5,953,100	107.4%	627,200	164.0%
H26	7,169,900	109.0%	6,183,900	103.9%	986,000	157.2%
H27	7,936,300	110.7%	6,266,000	101.3%	1,670,300	169.4%
H28	8,769,200	110.5%	6,640,100	106.0%	2,129,100	127.5%
H29	9,579,900	109.2%	6,887,900	103.7%	2,692,000	126.4%

観光要覧(H29)



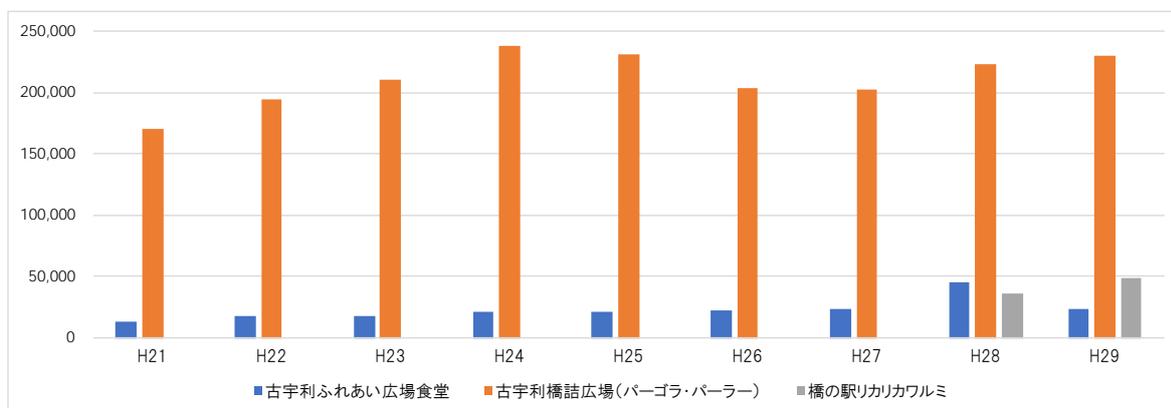
## イ 古宇利島の状況

屋我地島の北に位置する古宇利島は、古宇利大橋が平成 17（2005）年、古宇利島と天底を結ぶワルミ大橋が平成 22（2010）年に開通したことにより、観光客数が急増している。

それに伴い、レンタカーによる観光客等が増加し、古宇利島及び屋我地島の交通量も増加している。交通量の推移をみると、③・④・⑤地点の交通量は 10 年で増加しており、特に⑤地点は 2.6 倍となっている。

表 屋我地島周辺観光施設利用客数

	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
古宇利ふれあい広場食堂	13,519	18,080	17,856	21,143	21,090	22,195	23,570	45,610	23,211
古宇利橋詰広場(パーゴラ・パーラー)	170,714	194,518	211,069	237,683	231,745	203,690	202,368	222,677	230,307
橋の駅リカリカワルミ								36,717	48,852



※算出方法（入客数の県内・県外（国外）の区別はしていない）

出典：今帰仁村提供資料より作成

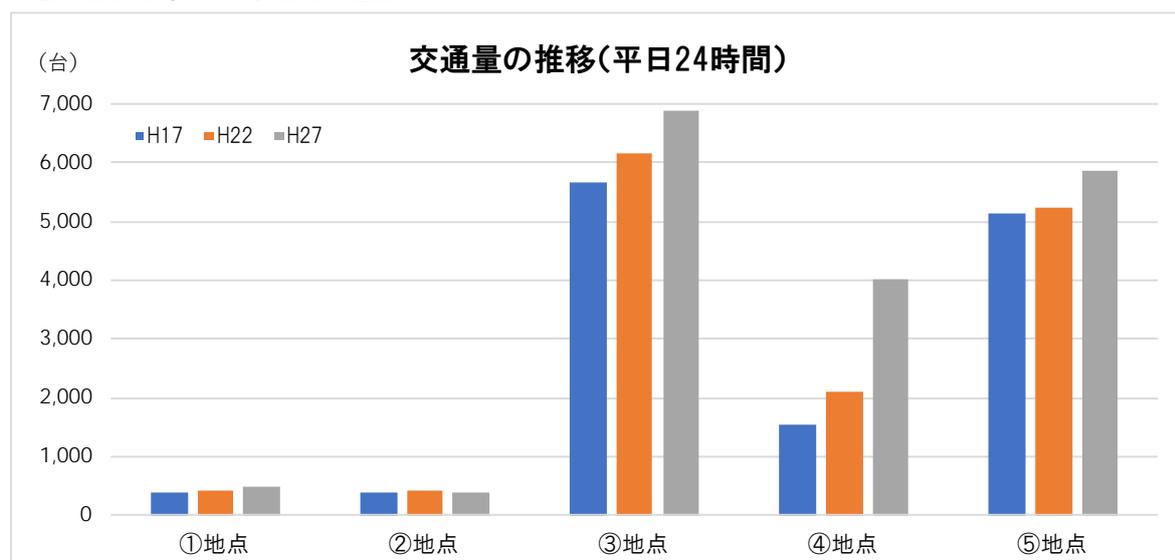
・古宇利ふれあい広場食堂：食堂利用者実数

・古宇利橋詰広場（パーゴラ・パーラー）：食堂利用者実数

（平成 21 年度からパーゴラ・パーラーの実数のみ報告。ビーチについては、実数を集計していないため、項目から除く。）

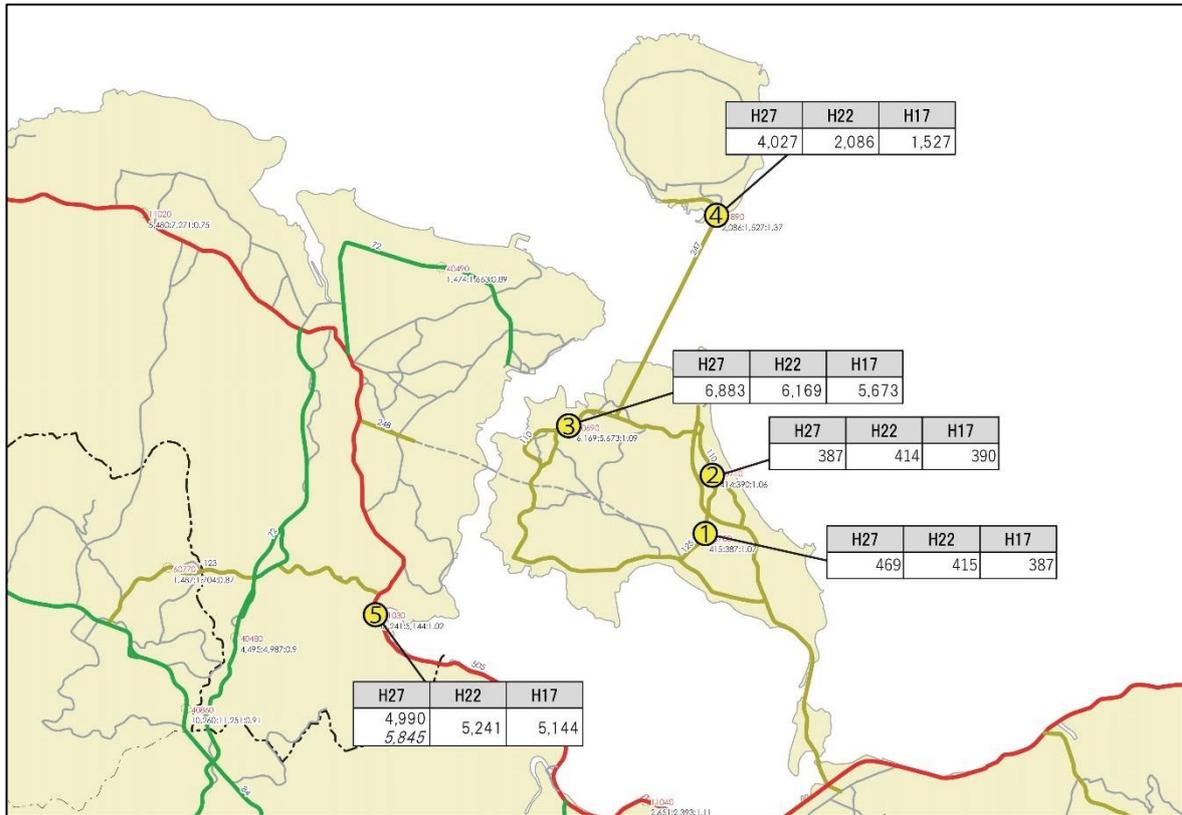
・橋の駅リカリカワルミ：店舗の売り上げレジカウント数（平成 25 年開業）

図 屋我地島周辺幹線道路交通量



出典：「道路交通センサス」（平成 27 年度、国土交通省）

図 交通量調査位置図



出典：「道路交通センサス」（平成 27 年度、国土交通省）